

保育室入り口の壁面が新しくなりました♪

2021年12月に完成した、まつむら第二歯科の保育室。その時から掲示されていた保育室入り口の看板と壁面が新しくなりました！たくさんの方に利用していただき、今では受付をする前に真っ先に保育室に駆け込んできてくれる子や、当日に利用してくださる方もいて大変うれしく思います。また、お子さまのお預かりではなくても待合室から保育室をのぞかれる方などもおり、お子さまの笑い声や時には泣き声に、保育室内を気にかけてくださる患者様もいらっしゃいます。

これまでの気球という図案は変わっていませんが、形や色、雰囲気が変わりました。これからも楽しんでいただければと思います。



★HAPPY HALLOWEEN★

10月31日はハロウィンです🎃診療所の飾り付けやキッズルームの窓壁面もハロウィン一色です。診療所内の飾り付けは季節ごとに診療所のスタッフで行っています。楽しみにしていただいているクリスマスのイルミネーションもスタッフが設置しています♪飾り付けがあるだけで、季節の雰囲気を楽しめたり、気持ちも盛り上がって楽しいですね♪キッズルームの壁面も季節ごとに変わっていらいますので、ぜひお楽しみください♪





日があっという間に短くなり、これが秋の夜長かぁと感じるようになりました。秋の夜長と言えば読書。10月27日の文化の日を始まりに11月9日までの2週間は読書週間とされ、読書の力によって平和な文化国家を作ろうという思いからつくられました。今年のテーマは『こころとあたまの深呼吸』です。

9月に保育士のおすすめ絵本として紹介した『くんちゃんのだいのり』という絵本は、保育士 K が以前、長岡市の子育てセミナーに参加したときに講師の先生が紹介されていた絵本でした。その時のテーマは“子どもの安全基地について”というものでした。

『くんちゃんのだいのり』は、くまのくんちゃんが主人公の絵本です。冬のある日、木にとまった1羽の鳥が「みなみのくににいく」と話します。くんちゃんはそれを聞き、『ぼくもいきたい!』と、お母さんに「いい?」と尋ねます。お母さんは「くまはふゆねむるのです」と答えます。それを聞いたお父さんは「やらせてみなさい」と答えます。さあ、くんちゃんのだいのりのはじまり!…なのですが、あれも持って行かなきゃ!あれも忘れてた!と、出発したり戻ったりの繰り返し。最後は結局眠くなって、お家のベッドで眠ってしまう…という絵のタッチも相まって、心がほっこりするようなお話になっています。

この絵本の中の、くんちゃんの安全基地はお母さん・お父さんです。心配しながらも忘れ物を取りに来たくんちゃんを見守ったり、いってらっしゃいのキスをするお母さん。「やらせてみなさい」とくんちゃんの気持ちを汲んで受け入れ、お母さん同様に見守るお父さん。受け入れてくれた、信じてくれた、待ってくれている人がいるという安心感の元で自分のやりたいことに挑戦することができるくんちゃん。きっとお父さん、お母さんはくんちゃんの性格を理解した上で見守ってくれているのだろうな…と感じます。

安全基地は子どもの心のよりどころです。おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、お兄ちゃんお姉ちゃん、誰しも誰かの安全基地になりえます。自分を信じてくれる人がいる、自分を受け入れてくれる人がいるという気持ちがあることで、外の世界への一歩を踏み出すことができるのだと思います。

子どもと大人の距離に関しても『可愛がられるために来た～子どもと暮らせば大人が育つ～』(松井るり子/著)という本の中に、へその緒に関するお話がありました(以下抜粋)。

(へその緒は)いくらあかんぼがお腹の中で動くといっても、首に巻き付いて、お産を重くするほど長いのは、どうしてかなあと疑問に思っていました。おかあさんとへその緒でくっついたまま、おっぱいに到達できる長さにつくられているのなら、本来の目的はそれに違いないと思います。(中略)それはまた、母子をつなぐひもの長さは五〇センチだから、身体で覚えておいてね、という長さなのかもしれません。五〇センチくらいは離れてもいいけれど、それ以上は離れちゃだめ。なぜなら離れるとあかんぼが泣くからです。「親の身体にくっついていて」という、あっけないほど簡単なことを実行するだけで、子どもの気持ちが安定して、どんどんいい子になるからです。

へその緒五〇センチという長さの意味が、こんなところにもあったのかと目から鱗でした。

今回は保育士が心に残った絵本、本を紹介しました。絵本や本を通して、お子さまとの関係性について改めて知る機会になればと思います。

